



デジタルサイネージの標準化 による普及と街づくりに向けて

伊能 美和子

(一般社団法人 デジタルサイネージコンソーシアム 専務理事)

■はじめに

サイネージとスマートフォンの連携と言われるが？



■メディアの特性①

サイネージ：大画面で大勢に情報提供



情報提供手段：
場所・時間で画面を切り替えて利用

スマホ：個人画面で情報選択



情報提供手段：
画面をスクロール、詳細情報を選択

サイネージとスマホで出す情報を分ける？

■メディア特性②

情報の提供量は サイネージ < スマホ
情報ソースは同じでも、それぞれで見せ方は異なる



■WEB技術による標準化メリット～情報提供者の観点～

**要望：同じコンテンツで、スマホ（Web）
でもサイネージでも活用できると効率的**

今後の解：Webブラウザ（HTML5）対応サイネージ

Webブラウザで、同じHTMLのコンテンツを利用して、スマホとサイネージのそれぞれにあった見せ方が容易になる！



ブラウザで表示のため、コンテンツの機種依存がない
⇒新たに端末を更改しても、コンテンツを変える必要がなくなる！

■WEB技術による標準化メリット～利用者の観点～

Web（HTML5）対応サイネージ

スマホ連携する際にWebブラウザで情報閲覧できると手間がかからない（特に外国人などの一時滞在者など）



アプリのインストール × 不要

スマホでは個人に紐づく情報の表示や情報の保存が可能
（サイネージの情報を補完・保持することも可能）



ユーザ属性で情報をカスタマイズして表示
・多言語対応（母国語で表示）
・エリア情報（路線交通情報等）



補完



■その他の標準化

- ・「アテンドサイネージ」の定義と名称普及
- ・「アテンドサイネージ」、「災害情報を提供するデジタルサイネージ」が一見してわかるピクトグラムの策定

<前提>

- 1) サイネージが**多様、多機能化**成熟していく中で、来街者、利用者が情報取得に向かう**インタラクティブ**性を伴うものを「アテンドサイネージ」と言葉を定義。
- 2) 現在各ベンダー、ロケーションオーナーが様々な仕様で個別で展開しているが、そのサイネージは「機能するもの＝アテンドサイネージ」か「表示だけなのか」が**一見して解る**ようにすることが必要。
- 3) 特に**2020年**に向け、**言語、年齢問わず、ユニバーサルに理解可能なアプローチ**としてピクトグラム化を推進。



<ピクトグラム化するテーマ案>

- 1.これは**情報が取得できる**インタラクティブなサイネージである
(新たな名称→アテンドサイネージである)
- 2.このデバイスは**多言語対応**である
- 3.このデバイスはスマホ（**モバイル**）と**連携できる**
- 4.**災害情報対応**のサイネージである

■ 欧米でのサイクルシェアサービス動向①

パリ、ロンドン、ニューヨークなど欧米の各都市で手軽な移動手段、環境配慮型公共交通として、サイクルシェアリングの普及が進んでいる。（パリでは不動産案内に自転車ステーションが掲載されるほど、パリ市民の欠かせない足となっている）
環境先進国では“街の先進性をPRするシンボル”としても積極的にアピールを図っている。

Paris



自転車 2万台
ポート数 1,800箇所

New York



自転車 6,000台
ポート数 403箇所

London



自転車 8,000台
ポート数 550箇所

■ 欧米でのサイクルシェアサービス動向②

ロンドン市ではロンドンオリンピックでの移動手段の一つとしてサイクルシェアリングが整備され、自転車数8000台規模で発展し、オリンピック期間中は1日4万回以上の利用がなされました。

◎ロンドン市『Barclays Cycle Hire』の概要



オーナー：ロンドン市交通局
メインスポンサー：バークレイ銀行
自転車台数：8,000台
拠点数：570箇所
利用回数：40,000トリップ/日



■ サイクルシェア×デジタルサイネージ

デジタルサイネージを取り入れた、継続運用が可能なモデルの導入も。



サイクルポートを使った防災発信



自転車車輪を使ったサイネージ広告



パーソナルモビリティ（電動車椅子）を使ったサイネージ広告

■大規模公開オンライン講座による人材育成

gaccoの講座機能（テスト・レポート相互採点・ディスカッション）

および反転授業による効果的な学びのスタイルを用いて、

- ・オリンピック・パラリンピックに向けたムードの醸成
- ・ボランティアスタッフ養成
- ・地方の魅力的なコンテンツの発信と地域活性化
- ・知の継承等の取り組みを活性化

・“gacco”とは、MOOC※の日本版プラットフォーム

（Massive Open Online Courses：大規模公開オンライン講座、2012年より米国からスタート）

・大学教員や専門学校講師等が数週間で学べる学習コースを開設

・世界中で1000万人以上が受講

・誰でもオンラインでの登録だけで無料で好きな講座を受講

・皆で学んで修了証の取得も可能

・生徒間ディスカッション、講師とのコミュニケーションなどインタラクティブな学びの場を提供

gaccoを活用した施策の取り組みイメージ

オンラインによる発信

オリンピック・パラリンピックに向けたムード作りと、ホスピタリティを高めるための講座

多言語クラウド、サイネージ/防災システムを運用・サポートするボランティアスタッフの育成のための講座

ポストオリパラを見据え、国内外に広く地域の魅力を伝え、誘致するための観光客向けの講座

ポストオリ・パラを見据え、教育現場において、未来を担う若者向けに地方の魅力を伝え、知の継承を目指す講座（土曜学習等）



コミュニティづくり

・gaccoの掲示板機能を活用した、同好の士をつなぐバーチャルなコミュニティの形成・維持

・地方自治体の持つアセット（学校、図書館等の公共施設）におけるリアルなコミュニティの形成・維持

オリンピック・パラリンピック並びに地方創生を担う人材の育成

■ 図書館や公共施設の積極的活用

図書館をはじめとする公共施設において、gaccoが利用できる学習環境（gaccoラーニングハブ）を展開中。ご自宅等でインターネット環境をお持ちでない方、社会人の方も公共施設において気軽にボランティア講座、地域発信プログラムの閲覧が可能。



【gaccoラーニングハブでできること】

政府・自治体が作成した講座を用いた勉強会、集団受講等の企画が可能
・公共施設に学習用コンテンツ、ツールが配備されることで、市区町村民の方々の学習意欲向上に寄与。

観光客が訪れた地域の文化、伝統を学ぶ情報スポットとして図書館を活用
・観光客向けの情報発信スポットとして、図書館の利用シーンを拡大。

ボランティア育成等、オンラインで学んだことの実践の場として図書館を活用
・gaccoの効果的な学習方法である「反転授業」を図書館で実施。学習効果向上とともに、地域の活性化のきっかけに。

【gaccoラーニングハブの導入事例】

1. くまもと森都心プラザ図書館
2. 指宿市立指宿図書館
3. 工学院大学附属高等学校図書館
4. 名古屋大学附属図書館

※導入に関する情報：<http://gacco.org/learninghub.html>

【導入館の声】

- ・関心深けに学ばれ、概ね好評の声が多かった
- ・無料でこのような学びの機会を得られたのは大変、意義があるとの声も聞かれた
- ・遠隔地における教育の格差に一筋の光を照らすもの
- ・誰でも気軽に利用できる図書館という場で、gaccoを受講できるという取り組みはとても面白いと思います

■東京→地方への還流を促すコンテンツ

デジタルサイネージを介して、地方色豊かな「食」コンテンツを発信し、東京から観光客を日本各地へ還流させて料理を学び、食べるという体験型のコンテンツを！

＜動画を使って、日本各地の食材と郷土料理の魅力を発信＞

- ・作り手（生産者）の顔が見える・食材の良さがわかる・美味しい食べ方がわかる
- ・各地に根差す食習慣を知ることができる

